

令和 6 年度 益田地域保健医療対策会議（地域医療構想調整会議関係者会議）記録

【日時他】

令和 7 年 3 月 13 日（木）14：00～16：00 益田合庁大会議室

【会の主旨】

- ・今年度の島根県保健医療計画（益田圏域）の進捗状況報告、各市町・病院からの取組報告、医療連携推進コーディネーターの活動報告を通じて、益田圏域の現状を理解する。
- ・意見交換を行い、新たな地域医療構想に向けた益田地域のビジョンを描くために、「医療ひっ迫を避けるための連携強化」「虚弱高齢者、軽症者の療養支援の強化」「住民の協力・理解を得ながら社会資源の維持・充実」について、論議する。

【開会あいさつ】 福屋総務保健部長

- ・梶浦所長が、家族のご不幸で欠席することをお詫び。

【議事】 進行：益田市医師会 大畑委員長

報告事項

1. 島根県保健医療計画（益田圏域）の進捗状況

①健康長寿しまね関連（健康増進課）、②医療・介護連携等（医事・難病支援課）

2. 各市町・病院からの取組報告（津和野町 清水課長）

3. 医療連携推進コーディネーターの活動報告（益田市医師会 石川統括）

意見交換

テーマ「2040 年の益田圏域がこうあってほしいな！を一緒に描こう（パート 2）」

3 つの構成で、今年度の関係機関の活動報告（資料 2-3）と併せ、ご意見を頂いた。

「医療ひっ迫を避けるための連携強化」

- ・益田広域消防 大賀委員：（適切な救急車利用について地域啓発してほしいことを質問）体調がすぐれないなら早めにかかりつけ医に相談すること、体調不良時の対応についても平時の受診で確認することをお願いしたい。しかし、命の危険を感じたら、ためらわず救急要請してほしい。行政に対しては、国の事業 #7119 の利用について、島根県も導入してほしい。（救急外来がひっ迫し搬送先が決まらないことが、どのくらいの頻度で起きているか質問）搬送件数が 4,194 件と年々増加。搬送病院決定までの連絡回数について、R6 年 2 回以上は 16%、R7 年 2 月末 2 回以上は 18%であった。
- ・訪問看護ステーション協会 斎藤委員：（利用者の病気・支援について質問）以前は、がんの看取り、老衰が多かった。今は、心不全・虚弱・生活ひっ迫者の生活全般の支援が増えていて、地域や家族全体の支援にも及ぶ。病院につなげたいが、本人が受診を拒否してつながらない。また、サービスにつながっていない人が地域にたくさんいる。生活困窮で最終手段で病院入院につなげるケースもいる。（日頃の訪問看護で感じること・関係機関

への要望を質問) 地域の声掛け、協力が大切。訪問看護の人材不足で大変なところではあるが、協力し合っていきたい。関係機関の方へは、今私たちがどう生きるか、わがこととして ACP を考えていくことが必要。自分の親をどう看るのか考えてほしい。

- ・益田赤十字病院 青木委員：(医療連携調整と感染症に対する医療について質問) 医療連携については、回復期・慢性期の受け皿が足りないので充実させること。在宅介護が困難、独居高齢者等が長期入院になっている。急性期病院としての本来の業務・救急受け入れ等に力をいれるためにも、社会的入院を減らしたい。現在の病院間協定だけでなく、施設との連携協定も考えてほしい。感染症の個室対応で病床利用に困っている。各施設療養をお願いしたい。重症でない方は、外来で注射等の処置をして、施設内療養をお願いしている。趣旨を理解し、施設の協力をお願いしたい。
- ・松ヶ丘病院 平方委員：(病床稼働の現状と病床稼働で工夫していることを質問) R6 2 月以降 94.93%の病床稼働。急性期は減少しているが、療養・認知症各病棟で稼働が挙げられている。急性期病床の空床については、地域医療構想のデータに基づいた議論もしつつ、機能を守りたい。適切な病床稼働を目指し、院内会議を開催。また、入院時から退院に向けた調整を始め、施設・病院・行政を交えた打ち合わせ会を開催している。空床の見える化のためにボードで情報管理をしている。今後、医療 DX の取組を検討して職員を 2 名増員。精神科が圏域で当院 1 つなので、なるべく入院を断らないし、地域の生活困難者の受け入れも意識している。身体合併等で他科受診連携も行っている。
- ・益田市医師会 大畑委員：医師会病院のことを紹介したい。4 月から病床改編。急性期は、益田日赤にお願ひし、特殊疾患病床を休床し、回復期・慢性期の受け入れを増やす。医師等従事者不足で病床維持が大変だが、山陰中央新報の記事のように「かしこく縮小」していきたい。人材不足解消のため、外国人技能実習生の受入をする。ベトナムから、今年度 介護実習生 5 名、R7 から看護補助 6 名の検討。

(3 市町の地域医療・在宅医療・従事者確保の取組)

- ・益田市 山本委員：美都診療所の医師勇退については、様々なところにご相談し、市内病院で定年退職される医師に後任のお願いが出来たことに感謝する。益田出身の医師に相談をする中で、資源の有効活用のことや、地域住民のためになる医療提供等ご意見を頂いている。地域包括ケアシステム構築を目指したい。
- ・津和野町 下森委員(代理 清水課長)：病院内機能分担を進めている。人材確保が課題。人材確保については、町・法人一緒になって県内外の学校訪問を実施。また、外国人技能実習生の受け入れは 5 名検討。調理員不足も深刻で、特定技能実習生を活用する予定。地域医療については、2 つの無医地区で巡回診療を公民館で行っている。他地区についても検討が必要。
- ・吉賀町 岩本委員(代理 渡邊課長)：公設民営で介護医療院とよしか病院を開設して 1 年。計画通りにいかないところもあるが、益田日赤の後方支援等、地域の役割も担いたい。

地域の理解を深めるために、地域と医療をつなぐ会を立ち上げて情報発信をし、カタクリ会と病院評価を行ったことも報告している。在宅医療については、訪問診療・訪問看護・巡回診療をつなげて展開したい。医療・介護従事者確保が課題。就学資金制度の充実、外国人人材を R7 から 4 名受入を検討。安定した医療のために取り組みたい。

「虚弱高齢者、軽症者の療養支援の強化」

- ・島根県看護協会益田支部 大場委員：看護職として地域住民の健康支援に力を入れる一環で、各市町のイベントに「まちの保健室」を開設し、住民さんの顔を見ながら健康相談に乗った。血圧手帳を持ってこられて血圧測定を記載しながらお話を聞き、益田地域で展開している ACP については、地域啓発版の「思いをつなげるシート」を実際に書いてみる体験を勧めた。今後も継続して取り組みたい。
- ・保険者協議会 岡崎委員：（保険者協議会の取組、職場の健康管理について質問）従事者の健診受診勧奨を行っている。これから定年延長等で長期雇用になることを踏まえ、高齢になる従事者の健康管理・健康支援が必要になってくると考えている。

「住民の協力・理解を得ながら社会資源の維持・充実」

- ・益田の医療を守る市民の会 尾庭委員：誰もが安心して住み続けられるまちづくりを考えるにあたり、医療介護だけでなく、生活支援・学校も含めて考えることが大切。情報交換は部会でも行った。次のステップの検討を深めてほしい。医療介護従事者が健康で豊かで楽しい生活を送ることが、住民の生活を豊かにすることにつながると考えている。従事者と市民の橋渡しを進めたいが、住民との課題の共有が難しい。昨年 9 月から、医療に関する学習会（県保健医療計画の学習）を始めた。住民の参加が少ない。
- ・津和野の医療を守り支援する会 松浦委員：日々の医療介護従事者の皆さんに感謝している。会として勉強しながら、自分たちが地域をつくるくらいの思いで、しっかり頑張りたい。巡回診療のことは、不便ところだが工夫して暮らしていけるように話し合い、住民が自慢できるようなまちにしたい。
- ・吉賀町の地域と医療をつなぐ会 土田委員：1 年経っていない活動。2 市町の活動を参考にしたい。会ではワークショップ等を実施している。内容を YouTube 配信しているので見てほしい。人口減少・サービス不足の批判が増えるが、医療介護従事者への感謝を忘れてはいけない。感謝を伝える機会を増やしたい。また、社会活動の充実について、有機農業者等地域の様々な人とつながり、人材づくりに着手したい。
- ・益田市連合自治会長 澤江委員：自分は健康ますだ市の会長もしている。H23 から開始し、第 2 期計画の取組中。心の健康・歯の健康・食の健康・運動の 4 つのテーマで、各地区組織が 2～3 年で巡回して全ての取組をする。今年度の活動報告会が終了したところ。我々の健康づくりの活動は、赤ちゃんからお年寄りまで（医療に頼らず、薬をたくさん飲んで治療するだけではない）健康で暮らすことが目標。活動が認められ、県知事賞等の受

賞につながっている。住民主体で健康づくりを進めていることは、ユニークな取組だと思っている。会長を14年やったが、自分も健康になった気がする。

【全体を通したご意見】

- ・鹿足郡医師会 栗栖委員：医療・介護連携部会でも話したが、免許返納・交通支援を進めてほしい。柿木から来ているが、益田は遠い。先ほど、できるだけ薬を飲まないという発言にビックリした。予防医学の視点で健診受診が大切。また、薬を飲むことも予防だということも理解してほしい。後継者問題で、医師の子どもが益田に帰ってこない。診療報酬が下がったり、外来も減ったりで経営困難だから、帰っておいでと言えない。病院だけでなく開業医にも目を向けてほしい。
- ・益田鹿足歯科医師会 斎藤委員（代理 納富先生）：様々な啓発活動を行っている。エビデンスに基づいた活動を広めたい。例えば、残存歯がなくなって入れ歯を入れたら寿命が延びたとか、入れ歯を入れない80歳代以上の男性の死亡が多いとか。健康に生きるための歯科治療については、糖尿病管理と歯科連携等広まっている。行政のプロジェクトと一緒に前向きな活動がしたい。
- ・島根県薬剤師会益田支部 高村委員：国の医療費削減の取組の1つに医薬品削減が出てくる。その影響で製薬メーカーが薬品製造をやめてしまう。その余波が薬局にも大きく影響している。この冬もインフルエンザが流行し、投薬したいが薬が不足し困った。ジェネリック薬品を利用しないと薬の入手に困る。現状を報告した。
- ・益田市 山本委員：県の保健医療計画に合わせて、医療提供体制整備を考えていきたい。
- ・益田市医師会 大畑委員：今日の議論を聞くと、各機関が精一杯頑張っている。その共有を今後も大切にしたい。

【閉会】福屋総務保健部長

- ・闊達な意見交換にご協力いただき、感謝したい。

「医療ひっ迫を避けるための連携強化」については、独居や生活困窮者の生活支援の強化や、回復期・慢性期・施設療養の連携強化等のご意見。「虚弱高齢者、軽症者の療養支援の強化」については、働いている人が長期に渡り就労できるように健康管理・健診受診が大切とご意見。「住民の協力・理解を得ながら社会資源の維持・充実」については、住民組織から住民への医療介護の理解につながる情報発信、住民主体の健康づくり活動の継続で、元気な住民を増やすこと等の貴重なご意見を頂いた。今日の整理をして、次に進めたい。ぜひ、市町の会議の中でも深めてほしい。